

北大形成外科

第34回

アカデミー

2017.6.10(sat) 16:10-18:30

北海道大学医学部フラテ会館ホール

Session 1

教育研修施設レポート

函館中央病院 形成外科 高橋紀久子

北斗病院 形成外科 本間豊大

北見赤十字病院 形成外科 藤井 暁

Session 2

北成賞2017受賞記念講演

〈臨床研究者部門〉 舟山恵美

林 利彦

〈基礎研究論文部門〉 塩谷隆太

安居 剛

Session 3

特別講演

「形成外科医にとっての手外科とは

～形成外科医が目指す手外科～

長崎大学 形成外科 田中克己 教授



代 表： 山本有平

事 務 局： 北海道大学医学部形成外科学教室
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
e-mail : info@prs-hokudai.jp

運営委員長： 小山明彦

PROGRAM

Session 1

教育研修施設レポート (16:10~16:55) 15分×3
Moderator : 舟山恵美

- ❖ 函館中央病院 形成外科 高橋紀久子
- ❖ 北斗病院 形成外科 本間豊大
- ❖ 北見赤十字病院 形成外科 藤井 暁

Session 2

北成賞2017受賞記念講演 (17:00~17:20) 5分×4
Moderator : 小山明彦

〈臨床研究者部門〉 舟山恵美

このたび北成賞「臨床研究者部門」の栄誉に与りましたことを大変うれしく思います。私たちの新しい口唇形成術のコンセプト“ASSIST”法が昨年Journal of Cranio-Maxillo-Facial Surgeryに掲載され (J Craniomaxillofac Surg 44:27, 2016)、これが今回の受賞の主たる理由となりました。本講演ではこの論文の内容について報告いたします。

〈臨床研究者部門〉 林 利彦

頬部の比較的大きな皮膚欠損を再建するための局所皮弁として頬部、後耳介部、頸部の3領域から成る皮弁を開発し、Malar - Posterior Auricular - Cervico flap (M-A-C flap) として報告しました (Ann Plast Surg 77:173, 2016)。また、PEPARSのケロイド・肥厚性瘢痕の治療の特集号 (PEPARS 117, 2016) において“我が施設 (私) のこだわり”というタイトルで、各施設での治療法について解説した特集号を編集しました。今回は以上の内容について要点を報告いたします。

〈基礎研究論文部門〉 塩谷隆太

Shioya R et al.: Prevention of lymphedematous change in the mouse hindlimb by nonvascularized lymph node transplantation. *Ann Plast Surg* 76: 442-445, 2016

リンパ浮腫とはなんらかの理由で皮下組織にリンパ液が貯留した結果生じる疾患であり、我が国においては悪性腫瘍に対する手術・放射線治療後に発症する率が高い。治療には大きく分けて保存的治療と外科的療法があるが、我々形成外科が関わる外科的療法は未だ標準的な治療とはなり得ていない。そこで当科で開発したマウス後肢リンパ浮腫モデルを用いて、近年注目されているリンパ節移植術の浮腫予防効果を検討する基礎的研究を行った。

〈基礎研究論文部門〉 安居 剛

Yasui G et al.: Neuregulin-1 released by biodegradable gelatin hydrogels can accelerate facial nerve regeneration and functional recovery of traumatic facial nerve palsy. *J Plast Reconstr Aesthet Surg* 69: 328-334, 2016

(ニューレグリン-1による顔面神経軸索再生促進効果)

成長因子のひとつであるニューレグリン-1の投与による顔面神経軸索再生の促進効果に関して、右顔面神経を切断縫合したラットモデルを用いて検証した。外部投与に用いたものはゼラチンハイドロジェルである。その効果判定には、表情筋の動き、脳幹内の顔面神経核、神経断面の軸索数の3つで総合的に評価している。

Session 3

特別講演 (17:30~18:30) 60分
Moderator : 山本有平

「形成外科医にとっての手外科とは
～形成外科医が目指す手外科～」
長崎大学 形成外科 教授 田中克己 先生

日本形成外科学会は今年で60回の節目の年を迎えるが。時を同じくして日本手外科学会も60回を迎える。手外科専門医制度は基本領域である日本形成外科学会と日本整形外科学会が両基盤となるサブスペシャルティ領域として新制度に対応すべく制度設計の最中である。専門化 specialization は学問の進歩のためには必然であるものの、細分化 fragmentation は避けなければならない。これは本体からの不可逆的な分離・分岐を意味しており、あくまでも大樹である日本形成外科学会に基づいて良き連携を行う分野としてとらえるべきものと考えている。このような意味においても形成外科医にとって手外科はたいへん重要な分野であり、形成外科医だからこそ可能な取り組みがあると考えている。

今回、手外科に関わる形成外科医のひとりとして、現状をお話するとともに、私が目指している手外科についてお話ししたい。

《本講演は新専門医制度の形成外科領域講習です。》



田中克己先生ご略歴

【学歴・職歴】

1984年 長崎大学医学部 卒業
同年 長崎大学医学部 形成外科学教室 入局
1992年 長崎大学医学部 形成外科 助手
1999年 長崎大学医学部 形成外科 講師
2003年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
発生分化機能再建学講座 構造病態形成外科学 助教授
2015年 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科
医療科学専攻 展開医療科学講座 形成再建外科学 教授
～現在に至る

【主な役職】

- ・日本形成外科学会 評議員
- ・日本手外科学会 代議員
- ・日本熱傷学会 評議員
- ・日本マイクロサージャリー学会 評議員・理事
- ・日本頭蓋顎顔面外科学会 評議員
- ・日本皮膚悪性腫瘍学会 評議員
- ・日本頭頸部癌学会 評議員
- ・日本褥瘡学会 評議員
- ・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会 評議員

～その他多数